

令和 4 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 5 年 1 月 2 6 日  
江別市立江別第一小学校

1 本年度の重点目標

未来を拓く学びの充実

- 主体的な学びの充実
- 夢の実現に向けたキャリア教育の推進
- 自己指導能力の育成

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	「めざす子ども像」の実現状況はどうだったか。 ①思いやりをもち助け合う子 ②すすんで学びよく考える子 ③ねばり強くやり抜く子 ④心も体もたくましい子	B 3.18	コロナ禍の中、子どもたちが集中して学習に取り組み、行事や生活面でも安定した様子が見られた。今後、他者に対する思いやりの気持ちの育成や、健康に対する意識の向上に向けて取り組んでいく。	A	A
	ICT 機器を効果的に活用し、進んで学びに向かう子どもたちの育成につながったか	A 3.36	一人一台タブレットの導入により、低学年でもタブレットに触れる機会が増え、児童のスキルも高まってきている。教師の得意不得意で差が出ないよう、6 年間を見通して、活用の仕方と習得するスキルの系統立てを行う必要がある。	A	A
	キャリアパスポートの活用等を通して、夢や目標の実現に向けて取り組む子どもたちを育成できたか。	B 3.18	地域の人材・資源の積極的な活用や ICT 機器、短いスパンでのキャリアパスポートの利活用等のねらいを子ども・教職員ともにはっきりとさせ、ふるさと江別や北海道を大切にする子どもたちを今後も育成していく。	A	A

	様々な教育活動や生徒指導等を通して、自ら判断しよりよい行動をとることができる子どもたちを育成できたか。	<b>B</b> <b>3.09</b>	振り返りカード等の取組だけではなく、重点として各教科や特別活動、行事などの取組の中で指導し、子どもたちに実践的な資質・能力を身につけさせていく。	A	A
	運営委員会や学年代表者会議等を機能させると共に、学年内の共通理解を意識し、チームとしての学年、学校づくりを推進することができたか。	<b>C</b> <b>2.86</b>	今ある組織や枠組を活用し、機能させていけるように、情報発信や共通理解に努め、学校運営を推進していく。	A	A
教育課程・学習指導・学年・学級経営	基礎・基本の確実な定着に向けた授業を構築することができたか。	<b>A</b> <b>3.41</b>	コロナ禍ではあるものの、感染防止に努めながら、昨年度よりも水泳学習や家庭科の調理等の教育活動を再開・充実させることができた。今後も検討しながら進めていく。	A	A
	探究的な学びの中で、思考力・判断力・表現力の育成に向けて、授業改善に取り組むことができたか。	<b>B</b> <b>3.18</b>	研究部と連携しながら、特に国語の授業において自分の思いや考えを表現（書くこと・話すこと）する活動を重視した取組をすすめ、成果も見られている。今後も、主体的・対話的で深い学びの推進に努めていく。	A	A
	学びに向かう姿勢、意識を育てることをめざし、児童一人一人のもつ良さや可能性を伸ばす学年・学級経営の充実を図ることができたか。	<b>B</b> <b>3.14</b>	担任や指導に当たる教職員と児童の関係を良好にするためには、児童と向き合う機会や時間の確保、納得を促す指導を今後も継続していく必要がある。	A	A
生徒指導	共感的な理解に基づき、「いじめを絶対許さない」学級・学校づくりを進めることができたか。	<b>A</b> <b>3.76</b>	児童会が主体的に活動したことでいじめは許さないという意識を全校で高めることができた。スローガンの掲示やビデオ放映は、特に効果的な取組となっていた。	A	A

生徒指導	「学校いじめ防止基本方針」の共通理解と方針に基づき、いじめに関する児童の心のサインを受け止め、組織的な指導体制のもと、適切に対応することができたか。	A 3.52	年2回のいじめアンケートの実施だけでなく、職員会議や終会時等、日常的に児童交流を実施することで、いじめの芽を見つけ早期対応につながられた。行き渋りや欠席状況等も教職員間で共有する等、今後も未然防止に努めていく。	A	A
特別支援	教育的支援を必要とする児童の把握と手立てを適切に行うことができたか。	A 3.48	会議以外の場面でも積極的に児童交流の場を設定できた。また、通級や担外教員が主体的に支援体制に参加することで適切な手立てを講じることができた。	A	A
	なかま学級と通常学級の交流や互いに尊重し合う人間関係の構築を適切に行うことができたか。	A 3.28	コロナ禍で学級交流ができない活動もあったが、体験学習や社会見学等でつながりやふれあいの場面を設定することができた。	A	A
健康・安全指導	自他の生命の尊重や安全に行動する資質や能力の育成に向けて、適切に進めることができたか。	A 3.31	自己指導能力の育成と関連させながら、健康・安全面においても、自分でどうしたら良いかを考え、行動できるよう、「～しなさい」という指導だけでなく、子どもから「どうしたいのか」「どうしたら良いのか」を引き出せるような指導も心がけていく。	A	A
働き方・環境整備	校務支援システムを活用した勤務時間の把握や定時退勤日設定、会議・打合等の精選や進め方、業務の見直し等、働き方改革に向けた業務改善を進めることができたか。	B 3.14	個々が意識して在校時間の縮減に努めていた。一方、持ち帰り業務の改善については今後の大きな課題であり、実態をしっかりとつかみ、具体策を講じながら今後の働き方改革をすすめていく。校務支援システムの活用については他校の取組を学び、好実践を取り入れていきたい。	A	A
<p><b>【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】</b>          第一小学校の職員の意識の高さを感じる。職員の評価も厳しいと思う。先生方は様々なことに一生懸命に取り組んでいるので、どの項目もA評価でもよいと感じる。承認する。</p>					

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない